

阿倍野区教育会議における意見等について

- 学力と体力の向上は大事だが、子どもたちの自己肯定感の向上につながるような取組みも進めてほしい。
 - 本市としましても自己肯定感の改善を図るため、道徳教育やキャリア教育の充実を図っておりますが、阿倍野区としましても、当区が実施する体力向上支援事業などにおいて、専門家の指導によりコツをつかむことによって、子どもたちが「できた！」と感じられる場を提供しております。このことがわずかながらでも子どもたちの自己肯定感の醸成につながればと考えております。

また、子どもの育ちの基礎となる保護者の養育能力を高めることが子どもたちの自己肯定感の向上にもつながると考えているため、保護者を対象としたペアレント・トレーニングを、就学前と学齢期（小学3年生以上）に分けて実施するとともに、本年1月に当区が開催した「子育て講演会」において、「自己肯定感を育む子育て」をテーマの一つとして専門家による講演を行いました。
- 小学生以降の支援に限らず、幼稚園や保育園等から小学校、中学校と、切れ目のない支援をめざしてもらいたい。
 - 本市では平成29年に「大阪市保育・幼児教育センター」を設置し、公立や私立、幼稚園や保育園などの種別を超えて、就学前教育カリキュラムの普及・浸透や幼児教育・保育に関する調査研究などを行い、幼児教育・保育の質の保障・向上に取り組んでおります。

当区でも妊娠期から子育て期まで切れ目のない子育て支援を行っており、主に未就学児の保護者を対象とした事業の一つとして、「子育て講演会」や「親力アップ講演会」を開催し、子育ての参考となるよう専門家の意見を提供しております。
- アジア圏からの転入も多く、国際共通語の英語以外の語学支援についても検討していただきたい。
- グローバル化が進み多文化共生が求められる社会においては、英語力の学習の他、異文化理解のサポートが必要。まずは、子どもたちが異文化に触れ、理解をするという人権的な面からも支援していただきたい。
 - アジア圏の言語を母国語とする方々との交流が増えてきていることは認識しておりますが、当区としましては、限られた予算の中、小中学校において教科化されている国際共通語である英語について、引き続き、「小学生英語等支援事業」を実施することで、英語を好きになってもらうきっかけづくりを提供するとともに、異文化と関わる機会を設けることができるよう事業内容を検討してまいります。
- 将来ビジョンを実現するためにも、保護者や学校現場の声をしっかり聞きながら、取り組みを進めてもらいたい。